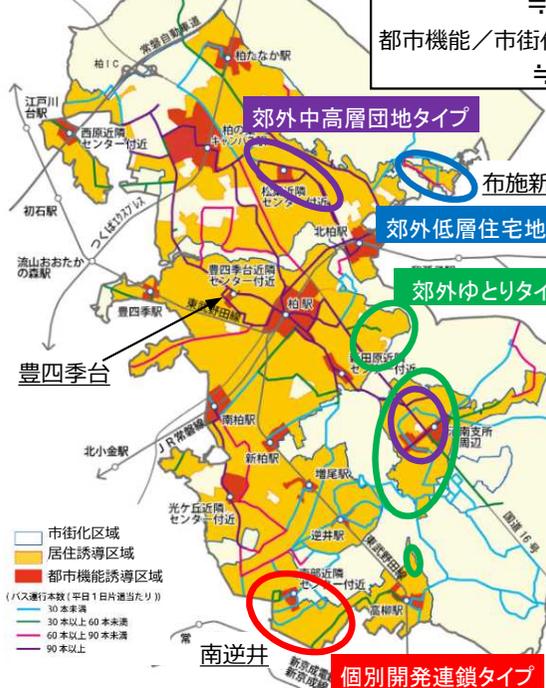


市全体では人口減少は限定的だが、地域毎の開発時期・タイプの違いにより大幅な人口減少が予想される地域も存在。地区単位の段階的な拠点を整備し、17の地域拠点を公共交通でつないだ多極分散ネットワーク型都市構造を実現。

居住誘導区域・都市機能誘導区域の設定状況

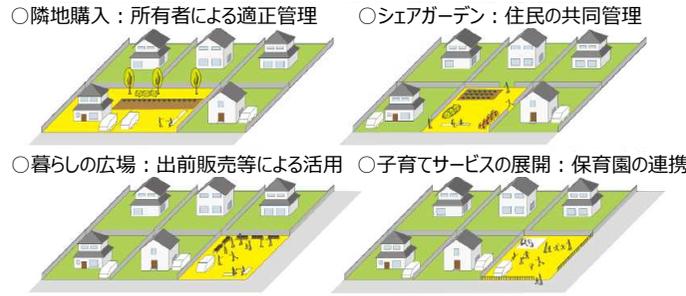
駅・支所・近隣センター付近のバス停を中心に、地区単位で都市機能誘導区域を設定

居住/市街化区域 ≒ 80%
 都市機能/市街化区域 ≒ 9%



郊外低層住宅地タイプ S40~50年代の低層住宅地。高齢化率が高い。

⇒ カシニワ制度を活用した空地活用の推進
 空き家の管理・活用施策の推進



【布施新町地区目標：地域の魅力向上による人口密度確保】

人口密度
 83.8人/ha (H22) → 60.0人/ha以上 (R10)
 55.5人/ha(趨勢)

空き家・空き店舗を活用したコミュニティカフェの推進



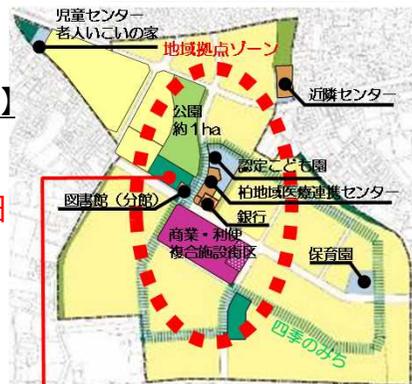
郊外中高層団地タイプ S50年代の団地。高齢化率が高い。

⇒ 暮らしの小拠点における地域包括ケアシステムの実現
 ・UR豊四季台団地において、豊四季台団地のイメージ先行実施。

【高齢者の外出機会の増加】

7,600歩/日(H29) → 8,000歩/日 (R10)

歩行量の増加により
 5.8億円/年※2の医療費削減



サービス付き高齢者向け住宅・地域交流センター・24時間対応の在宅医療・看護・介護サービス

郊外ゆとりタイプ 農地等が多く存在する市街化区域。

⇒ 都市農地活用等を含めた空地コントロール



・体験農園や市民農園等を提供できる環境づくりの推進
 ・用途地域の見直しや生産緑地の追加指定の検討

○路地裏マルシェ

・地元のNPO法人balloonが手がけるプロジェクト。
 ・空き地を地元野菜を販売するマルシェとして活用し、都市農地の活用を推進。



個別開発連鎖タイプ S40年代以降小規模開発が連続。人口密度が高く、道路幅が細い。

⇒ 空地等を利用した基盤整備の推進

○避難経路：行き止まりの解消 ○すれ違い道路：住民の共同管理



【南逆井地区目標：公的空地の拡大】

0.1ha(H28) → 0.5ha(R10)

➢ 施策推進により 4.5億円分※1の整備効果を住民との協働により創出

利便性・効率性の高い公共交通網形成

基幹的公共交路線の徒歩圏人口カバー率向上により、自動車からの交通手段の転換を目標値に設定

【自転車・徒歩等への転換率】 10% (R12)

【公共交通手段への転換率】 15% (R12)

上記4タイプの地域ではR22までに大幅な人口減少予測

カシニワ制度による低未利用地の有効活用

市民団体等による空き地の有効利用を市がサポートすることで、地域コミュニティ等の活動の場を創出

カシニワ情報バンク

カシニワはみなさんのお気持ちや情報が出会うことで生まれます。この出会いの場を「カシニワ情報バンク」と名づけました。ぜひご利用ください。

● 土地情報 ●

土地使ってください

林や空き地など管理に困っている土地を登録しませんか。

● 団体情報 ●

土地使わせてください

里山、広場、花畑、菜園。仲間と一緒に作ってみませんか。

● 支援情報 ●

あげますください

球根や腐葉土、あげます。庭づくりのアドバイスしてくださいetcカシニワを支援したいしてほしい方はこちら。

※1：同施策推進地区で新規に公園整備をした場合の整備費（柏市算出）
 ※2：効果指標から「歩行量（歩数）調査のためのガイドライン」を用いて柏市算出